

これは英国のミッドランド地方で、現在取り組まれている、保護者向けの学力向上に関わる啓発リーフレットを参考に、小柳が「読むこと」「書くこと」「算数的に考えること」と関わって、少しアレンジしてまとめたものです。

ミッドランドでは、このようなものを保護者よく集まる場所で配布し、それを使って、子どもへの接し方のワークショップを開催したりしています。

またチェックリストにチェックを入れてもらい、すでに行っている活動と気付いていない活動について保護者の方に振り返りの機会をもってもらいます。

oyanagi@nara-edu.ac.jp

<読むこと>

○ 0－3歳

早い時期から、お子さんのために本を読むことをはじめてみてください。あなたのお子さんは、あなたが本を読む声を聞くだけで、本を身近に感じ、それを楽しみ始めることでしょう。

- あなたがお子さんと一緒に読む絵本の絵について、指さしたり、これは何と尋ねたり、いっしょにそれについて話したりをしてみてください。
- 子どもが好きな本を何度も読んであげてください。それをためらわないでください。子どもは次第にお話を次第に理解し始め、いっしょに言葉をまね始めます。これはお子さんが、新しい言葉を学んだり、お話ししたりすることを支援することにつながります。
- 簡単な韻を踏む言葉遊びを教えてあげてください。言葉遊びや歌やリズムに乗った言葉・語呂遊びなどを試してみてください。

○ 3－5歳

あなたが子どもに本を読むときに、その本を子どもに持たせてください。そうすると、子どもは、単語を指さしたり、絵を触ったり、読むのを一緒に真似たりしやすくなります。これは、本をどのように読んだらいいか子どもにそれを学ぶのを支援することになります。

- あなたが子どもに絵本を読むとき、「絵の中で何が起きているのか」について子どもに尋ねてください。そして、「この次に何が起ころか」も尋ねてください。
- 子どもに、本を読むことをぜひ楽しませてください。キャラクターごとに声を代えて読んであげたり、何が起きているかを知らせるために、行為（アクション）でそれを子どもに示し、気付かせ、お話の世界を楽しませてください。
- 本無しに、子どもにお話を語りかけてください。そして、自分でお話を作る機会を与えてみてください。例えば、「大好きなおもちゃの話」などを子どもに作ってもらってください。
- どんな本が好きで、どんな本が好きじゃないのか、子どもに尋ねてください。それはなぜなのか、考えていることについて、子どもに話してもらってください。
- 本の中に登場してくる言葉で、知っていることなどを、子どもに指摘してもらったり、その言葉の箇所を読んでもらったりしてみてください。
- 子どもが自信を持ち始めたら、あなたが本を読むときに、一緒に付いて読むように誘ってください。

○ 6－8歳

この頃になると、あなたのお子さんは、たくさんの種類の本や文章など（お話、情報がたくさん載っている本、雑誌、インターネット、新聞、リーフレット、ちらし、など）を目にし、接していると思います。子どもが色々なお話に接し、読んでいく機会を持つことは重要です。どうぞそれを誉め、勇気付けてあげてください。

- 静かな場所で、あなたのお子さんが本を読むのを聞いてみてあげてください。
- あなたのお子さんが、何かを読むことに心地よさを感じるように、環境を整えたり、誉めたりしてあげてください。そしてあなたも本を読んでいるのを一緒に楽しんでいることを、子どもに感じさせてあげてください。
- あなたのお子さんが興味を持った絵について取り上げてみてください。そしてその絵の中で何が起きているかについて、子どもに尋ねてください。登場する人はどんな人か、そのイメージを尋ねてください。絵の前後で何が起こったか、起こるのか、を考えさせてください。
- お子さんが好きなテレビ番組や映画について話し合ってみてください。そのお話の中で何が起きているかについても話し合ってみてください。
- メインキャラクターやその様子などを話し合ってみてください。
- そのお話の中でもっともわくわくする場面やもっとも悲しかった場面などを話し合ってみてください。
- そのテレビ番組や映画が楽しんでいる理由をお子さんに尋ねてください。

○ 8－11歳

この年齢でも、あなたのお子さんが本を読むのを聞いてあげることは大変重要です。

- 学校で今読んでいるお話について、お子さんに尋ねてください。お子さんはそれを楽しんでいるかなどを尋ねてください。お子さんが本を読むことに楽しさを感じているかどうかを見つけることが重要です。
- お子さんにテレビガイドを読ませたり、買い物リストを読ませたり、することで、家族に関わることを家族のために、「読む係り」として家庭で位置づけてみてください。これはお子さんに、読むことは生活にかかわる大事なことという感覚を体験させることになります。
- お子さんが読んでいる本について尋ねてください。読んでどのように感じているか尋ねてください。そのお話は、笑わせたり悲しませたりしているかを尋ねてください。作家は、ある部分を使って、読み手にどのように読み取らせたい、どのように感じさせたいと考えているかをお子さんに尋ねてください。
- お子さんとノンフィクション（新聞、説明文、メニューほか）を見つけて一緒に読んでみてください。そして似ていることと、違うことを話し合ってみてください。

<年齢を問わず家の中で>

- 兄や姉が、弟や妹のために本を読んであげられるように勇気付け、その場面を作ってみてください。
- あなたが何かを読んでいる姿をお子さんに見せてください。そして、お子さんが本を読んでいるときに、読んでいることを尋ねるように、自分が読んでいるものについて、お子さんを隣に呼んで、お話したり、予想させたりしてみてください。

<年齢を問わず外出先で>

- 外出しているとき、そこにある様々な言葉（お店の名前、道路の標識、通りの名前、食べ物の名前、広告）に目を向けさせ、面白い言葉を見つけさせるなど関心を持たせてください。
- 本日見つけた面白いことばベスト10やベスト5などについて、話し合ってみてください。
- 見つけた言葉や考えた言葉など、移動しながら、しりとり遊びをお子さんと楽しんでみてください。

<書くこと>

○ 0—3歳

書くことに興味を持たせるには、早い時期から、お子さんのために本を読むことをはじめてみてください。あなたのお子さんは、あなたが本を読む声を聞くだけで、本を身近に感じ、それを楽しみ始めることでしょう。

- あなたがお子さんと一緒に読む絵本の絵について、指さしたり、これは何と尋ねたり、いっしょにそれについて話したりをしてみてください。
- お子さんに、あなたが何かを書いている姿を見せてあげてください。例えば、メモやカードを書いたり、買い物リストを作っている姿などを見せてあげてください。
- お子さんが何かを描く機会をつくり、その活動を誉めてあげてください。クレヨンや何か書けるものを使って、お話と関わって、また自由にマークを描かせたり、模様を描かせたりしてみてください。

○ 3—5歳

あなたのお子さんが自由に使える紙、クレヨン、鉛筆などを用意してみてください。

- お子さんが何かしているとき、より詳細にお子さんにそのことについて尋ねてください。このお話は書く活動のための準備となります。
- 書くことにつながる絵を描く活動を誉め、勇気付けてください。
- お買い物に行く前に、買い物リストを絵で描いたり、知っている文字で書いてもらうようにお子さんに頼んでみてください。
- お子さんとお家の出来事の絵本を一緒に作る機会を作って見ましょう。お買い物に出かけたり、外出したりしたら、そのことについて、お子さんに尋ねてください。そしてそれを絵や知っている文字で簡単に描いたり、書いてもらってください。
- 雑誌やチラシなどから気に入った絵を切り取ったり、家族の写真を使って、お家の出来事の絵本を楽しみながら一緒に作ってください。

○ 6—8歳

この頃になると、あなたのお子さんは、様々な書く機会と出会っています。お子さんが作りたいもの、どのようにそれを見せたいか考えさせ、語らせてください。

- お子さんが書いたものについて、お子さんに尋ねてください。それをあなたに読んでもらうようにお子さんに頼んでみてください。そして書かれている内容についてお子さんに尋ねてください。
- あなたのお子さんが、何かを書くことに心地よさを感じるように、環境を整えたり、誉めたりしてあげてください。そしてあなたも何かを書くのをお子さんに見せ、一緒に楽しんでいることを、子どもに感じさせてあげてください。
- あなたのお子さんが興味を持った映画やテレビ番組について取り上げてみてください。

い。そしてその中で登場人物が何を言ったか書かせてみてください。

- お話に登場するキャラクターや場所について、お子さんに絵を描かせてください。そしてそれらを描く言葉についてお子さんに考えさせてください。その描いた絵の周りにその言葉を書かせてみてください。

○ 8－11歳

この年齢になると、あなたのお子さんは学校でより多くのものを書いています。異なる人に向けて、異なることを書く機会を持っています。

- 学校で今何を書いているか、お子さんに尋ねてみてください。これは、あなたのお子さんが書くことを楽しむ上で重要です。
- お子さんに礼状を書いてもらったり、買い物リストを書いてもらったり、することで、家族に関わることを家族のために、「書く係り」として家庭の中に位置づけてみてください。これはお子さんに、書くことは生活にかかわる大事なことという感覚を体験させることになります。
- お子さんが静かに書ける場所を見つけてください。そして書き始める前にしなければならないことを、子どもに思い出させたり、感じさせたりしてみてください。
- お子さんが何かを書く前に、そのアイデアを聞いてあげてください。書いたり計画を立てたりすることについて、お子さんを手助けしてあげてください。書くときに、落ち着いて取り組めるように手助けしてあげてください。
- お子さんが書き上げたら、それについて尋ね、あなたに向かって読んでもらってください。またお子さんが、難しいと感じている部分があれば、そこに書き換えのアドバイスをしてあげてください。

<算数的に考えること>

○ 0－3歳

早い時期から、お子さんに、数や形などについて関心を持たせてみてください。

- お子さんに、数、色、形など指し示したり、感じさせたりしてみてください。
- お子さんと数の歌を一緒に歌ってみてください。
- ロケットのまねをして、数を数えながらリフトオフ（出発）をするなど、数を数えて遊ぶモノまね遊びを一緒にしてみてください。
- 簡単なおもちゃを使って、形の似たものを集めたり、型に正しい形を選んで埋め込むおもちゃなどを使って、形を感じさせる遊びなどを試してみてください。
- もしあなたが数を見つけたら、そのつど、お子さんにみせて関心をもたせてください。少し大きくなったら、数をみせてそれが何であるか尋ねてみてください。

○ 3－5歳

この年齢の子どもは、数を数えたり、用いたりするのによりよい時期です。

- 家にあるもの、外出先であったものについて、数を数えるようにあなたのお子さんに尋ねてみてください。
 - 買い物かごにあるものの数を数えさせる
 - 部屋にいる人の人数を数えさせる
 - 階段に登っているときに、その数を数えさせる
 - 洗濯籠の中の洗濯物を数えさせる
- 子どもと一緒に数える機会を多く作ってください。指や足を使って数えたり、5や10から遡って数えたりしてください。

○ 6－8 歳

この頃になると、あなたのお子さんは、学校で数を数えたり、100以上の数に出会ったりします。

- おもちゃや衣服のような日常生活にあるものを使って足したり引いたりさせてみてください。
- あなたのお子さんとお家での算数を始めてみてください。学校でお子さんが学んでいる多くのことを思い出させ、それを助ける活動をしてあげてください。例えば、掛算表を作って、数え上げたり、その反対をしたりなどです。
- 各数字が大きな数を作っていることを子どもと話しあってみてください。例えば、75は、10が7つと5で作られていることなどです。
- 数字の並べかえなどさせて数の大きさを考えるのを慣れさせて下さい。例えば、328、132、371、415、76を小さいものの順番に並べてごらん、などです。
- 隠れた数字を探せゲームもしてみてください。例えば、 $46 = \square + 6$ 、 $97 = \square + 7$ 。
- 2の段、5の段、10の段をお子さんが繰り返し練習するのを助けてあげてください。
- 3の段、4の段をお子さんが繰り返し練習するのを助けてあげてください。このように次の段に移って練習するのを支援してください。
- お子さんに、 8×5 は何など、掛算を尋ねてください。

○ 8－11 歳

あなたのお子さんが頭の中で算数をよりよくイメージできるように、日常生活の事例を用いてお子さんに数について尋ねてください。

- あなたの身の回りにある事例についてお子さんと読んだり、話したりしてみてください（値段、重さなど）。
- お子さんに、頭の中ですぐに計算できるような、問いの機会をしばしば与えてみてください。 $34 + 45$ は？、 7×6 は？、 $40 \div 4$ は？ $38 - 17$ は？。
- あるパターンを持った計算遊びをお子さんとしてみてください。 $7 + 6$ 、 $17 + 1$ 、 $27 + 6$ 、 $47 + 6$ 、 $147 + 6$ 。 5×2 、 50×2 、 500×2 、 500×20 。 $20 + 1$ 、 $20 + 11$ 、 $200 + 11$ は？。
- お子さん家の中にあるいろいろな箱を開いてみたり、開いた箱を組み立ててみたりしてみてください。またカードを使って箱を作ってみたりしてみてください。
- お店で買い物をするときのように、家で、お買い物ごっこをしてみてください。おつりを数えたり、支払ったり、1ついくらか考えたり、どっちがお得かを考えたりです。
- 学校で学んでいる平面の図形や立体の図形の形や名称をお子さんに尋ねてください。その特長を尋ねて、分類をさせたりしてみてください。

<年齢を問わずキッチンの中で>

- お手伝いをお願いしながら、お子さんと一緒に、キッチンにあるものを数えたり、似た形のものあげながら、分類・整理したり、重さを量ったりしてみてください。
- お子さんと料理の時間を計ったり、計算したりしてみてください。

<年齢を問わず外出先で>

- 数遊びをしているとき、算数的な活動をしているとき、お子さんを誉め、リラックスさせ、算数の楽しさを感じさせるようにしてください。
- 次の誕生日までの日数や、大事な日などをカレンダーに書き込み、日にち、週間などについても関心を向けさせてください。
- おもちゃで遊んでいるときなど、前、後、右、左といった方向や進む、後ろに下がる、などについてお子さんと話す機会を持ってください。
- 大きさ、形、重さなど、様々な機会にお子さんに比較させてみてください。
- あなたが計算が必要なとき、電卓や携帯電話で計算する前に、お子さんにその答えを尋ねてみてください。そして、その後、計算して、お子さんとそれを確かめてみてください。計算するお子さんにどうぞ感謝を表現してください。